

オガサワラコバネコロギス

Neanias ogasawarensis

バッタ目(直翅目)

コロギス科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長♂ 18～21mm、♀ 24～30mm、産卵器 14～15mm。黄褐色から赤褐色で光沢が強い。頭頂から後頭部および腹部背板の後縁は暗色。前翅は非常に小さく、葉片状で側生する。前・中脚脛節の下面には長い可動棘が4対ある。産卵器は長く直線的。♀の腹端部下面は深く大きく凹む。樹林性で肉食性種。夜行性で、昼間はタコノキやタコヅル、オガサワラビロウなどの枯葉の重なったところに糸で綴った巣をつくって潜んでいる。成虫は通年見られる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

乾性低木林から湿性高木林まで多様な樹林に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

夜行性のため、グリーンアノールによる捕食といった直接的な影響は強く受けていないと思われるが、餌となる他の昆虫類の減少という間接的影響が考えられる。

【関連文献】

Vickery, V. R. et al., 1999; 日本直翅類学会(編), 2006.

(執筆: 石川均)



ムニンツユムシ

Ducetia boninensis

バッタ目(直翅目)

ツユムシ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長(翅端まで)28～32mm。褐色または緑色。終齢幼虫時に緑色でも褐色型成虫となる場合がある。セスジツユムシによく似るが、♂の尾肢は先端に向かって細まり、翼状には広がらないことにより区別できる。林縁の灌木上で見られる場合が多いが、湿性高木林や乾性低木林にも生息する。ジジジジッと小さく鳴き始め、ジャキジャキジャキと鳴くが、その後チャキチャキチャキとテンポを速め再びジャキジャキ…と繰り返す場合がある。昼間は樹葉上で脚を伸ばして静止し、ほとんど動かない。成虫は通年見られる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

乾性低木林から湿性高木林まで多様な樹林に生息する。林縁部にも生息するが草地には見られない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

昼間はほとんど活動しないためグリーンアノールによる捕食を受けないという説もあるが、今後捕食圧が強まる可能性もあるため、生息情報の集積が望まれる。

【関連文献】

Ishikawa, H., 1987; 石川均, 2010.

(執筆: 石川均)



ムニンエンマコオロギ

Teleogryllus boninensis

バッタ目(直翅目)

コオロギ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長22mm前後。産卵器12mm前後。チョコレート褐色から赤褐色、しばしば淡色個体が出現する。♀の産卵器はエンマコオロギ属の中ではやや短め。人家周辺の草地や畑周辺に生息する。鳴き声はリーコロコロ、リーコロコロ…とせわしく鳴く。冬には鳴き声は聞かれない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

耕作地周辺の草地に生息するが、母島では乳房山山頂部にも生息する。父島では、以前は市街地周辺で普通に鳴き声が聞かれたが、現在は市街地ではほとんど聞くことが出来ない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

公園や住宅地周辺の整備により街中から姿を消したのと考えられる。また、オオヒキガエルによる捕食圧も考えられるが、オオヒキガエルが多数生息する地域に本種の多産地があるため影響の程度は不明である。

【関連文献】

松浦一郎, 1985; 日本直翅類学会(編), 2006.

(執筆: 石川均)



ムニンツツレサセコオロギ

Velarifictorus politus

バッタ目(直翅目)
コオロギ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長♂ 15.5～18.1mm、♀ 16.2～18.7mm、産卵器 12.0～12.8mm。ツツレサセコオロギに非常によく似ているが、♀の産卵器はやや短く、♂は交尾器の形態により区別できる。樹林性の種で、湿性林から乾性低木林の林床に生息する。日中は落葉下や腐植土層に潜んで鳴いている。リィ、リィ、リィ…と丸みのある声で鳴き、ツツレサセコオロギに比べ敏感で近づくとすぐ鳴き止む。冬には鳴き声はほとんど聞かれない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林に生息し、草地には見られない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

地表性であることからグリーンアノールよりもオオヒキガエルによる捕食を大きく受けていると考えられるが、確認されていない。また、原因は不明であるが父島からは最近生息情報がない。

【関連文献】

Ichikawa, A., 2001a; 日本直翅類学会(編), 2006.

(執筆: 石川均)



オガサワラクチキコオロギ

Duolandrevus major

バッタ目(直翅目)
マツムシ科

小笠原諸島

*

環境省

【形態・生態】

体長♂ 26～29mm、♀ 19～27mm。産卵器 17～20mm。赤褐色で光沢が強い。♂では腹部背板の1対の淡赤色斑が目立ち、♀では赤味の強い個体が多い。主に湿性高木林の林床に生息する。樹皮下や朽ち木中よりは林床に多く生息し、石や倒木の下、土中の穴に潜んでいる場合が多い。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

母島の標高約380m以上の湿性高木林やタコヅル群落に生息するが、外来樹種のアカギ林にも生息する。なお、過去には低標高地の樹林における記録もある。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

低標高地の樹林では減少している可能性があるが、その原因は明らかでない。林床に生息する機会が多いことから、オオヒキガエルによる捕食の影響を受けている可能性がある。

【関連文献】

Otte, D., 1988; 石川均, 2011.

(執筆: 石川均)



オガサワラヒバリモドキ

Trigonidium ogasawarensense

バッタ目(直翅目)
ヒバリモドキ科

小笠原諸島

NT

環境省

【形態・生態】

体長♂ 4.5～5.3mm、♀ 4.8～5.8mm、産卵器 2.3～2.5mm。体は全体的に黒色で尾肢は黄白色、脚は黒色であるが腿節基半部は黄白色。複眼はチョコレート褐色。前翅は黒色。発音器はない。産卵器の鋸歯は明瞭。長翅型は知られていない。やや湿った樹林の林床、低木樹葉上などに生息するほか、源流部の湿性草地にも生息する。成虫は通年出現する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

湿性林内を主要な生息地としているが、ムニンナキリスゲ群落が見られる低木林や河川源流部の湿地にも生息している。小さな属島には生息しない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島では最近生息が確認されていない。他の多くの昆虫と同様、グリーンアノールによる捕食の影響を大きく受けている可能性がある。

【関連文献】

Shiraki, T., 1930; 石川均, 2010.

(執筆: 石川均)



オガサワラカネタタキ

Ornebius longipennis longipennis

バッタ目(直翅目)

カネタタキ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 12.0～12.5mm、産卵器 9mm。大型のカネタタキで産卵器は長い。体色は黄褐色から褐色で、♂の前翅は淡黄褐色。♀は無翅。樹林性で樹上に生息し、昼間はタコノキ、タコヅルなどの枯れ葉の密なところに集まって潜んでいる。チン・チン・チン、またはピン・ピン・ピン、とカネタタキより低い音程でゆっくりしたテンポで鳴く。成虫は秋季に多く見られる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

湿性高木林、乾性低木林などの樹林に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島では最近確認例が少なく、グリーンアノールによる捕食の影響を受けている可能性がある。

【関連文献】

Shiraki, T., 1930; 日本直翅類学会(編), 2006.

(執筆: 石川均)



アニジマイナゴ

Boninoxia anijimensis

バッタ目(直翅目)

バッタ科

小笠原諸島

DD

環境省

DD

【形態・生態】

体長♂ 30.1mm、♀ 40.8～42.1mm。黄緑色で前・中脚腿節は鮮緑色、脛節は暗色。前胸背板はしわ状で光沢があり、正中部の稜はほとんど認められない。頭部、前胸背板の正中部には幅広い黒色縦帯がある。頭部の黒帯はつや消し状。触角は基部数節を除き黒色。前翅はスス色で翅脈は黄緑色を帯びた乳白色。後翅は短く飛翔できない。後脚膝はとがるがとげはない。シマミスノキだけが食餌植物として知られる。成虫まで7齢を要する。幼虫がハシナガウグイスに捕食された観察例がある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

乾性低木林に生息し、シマミスノキの樹上から採集されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

詳しい生態は不明であるが、兄島の記録しかなく個体数は非常に少ない。捕食性外来生物の侵入があれば容易に絶滅に向かうおそれがある。

【関連文献】

石川均, 2010; Ishikawa, H., 2011.

(執筆: 石川均)



オガサワライナゴ

Oxya ogasawarensis

バッタ目(直翅目)

バッタ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

体長♂ 30mm、♀ 40mm。黄緑色で体背面および腹部は褐色。胸部・腹部腹面は赤橙色。複眼後方から前胸背にかけて黒帯がある。触角は、上面が乳白色で下面は黒褐色。前翅は褐色。全体的に光沢が目立つ。翅は短く、飛翔しない。林縁の樹上で採集されている。詳しい生態は不明であるが、採集例の多くは林縁的環境である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

採集例からみてイネ科草地に生息する種ではなく、樹林性と考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1997年6月に父島で1♂が採集されたのを最後に、生息が確認されていない。樹上性で昼行性のためグリーンアノールによる捕食の影響が大きいと考えられ、絶滅した可能性が高い。

【関連文献】

Ichikawa, A., 2001b; 日本直翅類学会(編), 2006.

(執筆: 石川均)



マボロシオオバッタ

Ogasawaracris gloriosus

バッタ目(直翅目)

バッタ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

体長♂ 44～51mm。全身緑色。前翅は緑色で褐色の小斑点が散在する。触角は長く、前胸背板の後縁を越える。前胸背板の背面は平坦で光沢を欠き、正中縦稜は明瞭、側縁の隆起は発達し直線的、側面はシワ状で光沢が強い。♂の陰茎複合体の上下にキチン板がある。詳しい生態は不明だが、近縁の属と考えられるセグロバッタ属と同様に、草地に生息しイネ科草本を摂食すると推測される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。草地に生息すると推測される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1984年11月に母島で採集された2♂を最後に生息情報がないため、絶滅した可能性がある。生態などが不明なため、その原因は分からない。

【関連文献】

Ito, G., 2003; 日本直翅類学会(編), 2006.



(執筆: 伊藤元・石川均)

【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は次の文献に準拠した。

日本直翅類学会(編), 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会. xxxvi + 687 pp.

【留意種とした理由】

和名	留意種とした理由
オガサワラクチキコオロギ	湿性高木林に生息する母島固有種で、個体数は多くはない。減少傾向にあるという情報はないが、生息地が限定されていることから、生息状況については留意する必要がある。

【関連文献】

- Ichikawa, A., 2001a. New species of Japanese crickets (Orthoptera; Grylloidea) with notes on certain taxa. *Tettigonia*, 3: 45-58.
- Ichikawa, A., 2001b. A new genus and some new species of Japanese Orthoptera with taxonomic notes on some taxa (Phaneropteridae, Catantopidae and Tetrigidae). *Tettigonia*, 3: 59-68.
- Ishikawa, H., 1987. A new species of the genus *Ducetia* Stål (Orthoptera, Tettigoniidae, Phaneropterinae) from Chichi-jima, the Bonin Islands, Japan. *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, 18(3-4): 245-248.
- Ishikawa, H., 2011. Occurrence of a new grasshopper, *Boninoxia anijimensis* gen. et sp. nov. (Orthoptera, Acrididae, Oxyinae) in the Ogasawara Islands, Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 17(1): 115-120.
- 石川均, 2010. 23年ぶりの小笠原、直翅類採集記. ぱったりぎす, 145: 1-24.
- 石川均, 2011. 2009年・・・23年ぶりの小笠原、直翅類採集記 続編. ぱったりぎす, 147: 3-13.
- Ito, G., 2003. *Ogasawaracris gloriosus*, a new genus and species of possibly extinct grasshopper (Orthoptera: Acrididae) from the Ogasawara Islands. *Entomological science*, 6(2): 85-88.
- 松浦一郎, 1985. 小笠原島から記録したエンマコオロギ属の一新種. *New Entomologist*, 33(4): 50-52.
- 日本直翅類学会(編), 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会. xxxvi + 687 pp.
- Otte, D., 1988. Bark crickets of the Western Pacific Region (Gryllidae: Pteroplistinae). *Proceedings of the Academy of Natural Science of Philadelphia*, 140(2): 281-334.
- Shiraki, T., 1930. Orthoptera of the Japanese Empire part 1. (Gryllotalpidae and Gryllidae). *Insecta Matsumurana*, 4(4): 181-252.
- Vickery, V. R., Kevan, D. K. McE. & M.-L. English, 1999. Insects of Micronesia, Volume 5, no. 4 Gryllacridoidea, Rhaphidophorioidea and Tettigonioidae (Grylloptera). *Micronesica*, 32(1): 11-83.